

## ボディを作ってみる?

スロットコースを激走する自分だけのマシンを製作する



パーツキットからカッター・ハサミなどで型から外す。今回、レジン（樹脂）で作られたオリジナルモデルのボディを使用。



切断部分のバリを100番程度の紙ヤスリで研ぐ。レジン（樹脂）で作られたモデルの場合は、表面は最終的に1000番で研ぎ付ける。



塗装を行う前処理のマスクング作業中。市販のマスクングテープやマスクングシートを使用。雑誌掲載の写真が参考書となる。



周回するマシンの塗装強度を上げるため、3回の下地の後、塗装作業を行う。塗料は乾燥後の塗膜が強いラッカー塗料を使用する。



忘れてならない雰囲気作りの必須アイテム「ドライバー」の登場。写真はブーツも履いた全身タイプ。値段は¥1,500ほどだ。

いよいよ最終工程、「デカールシール」の貼り付け。これで見た目も「グン」とアップ。最後に油性クリアを塗布して完成。



### プラモデルの延長感覚でOK!

スロットカーはディスプレイ用プラモデルと異なり、コースを激走する。当然コースアウトや他車との接触によるクラッシュ等も頻繁だ。走りと同様、見た目も重要なマシンに求められることは、簡単に壊れない・剥がれないが基本。とは言っても、激走に耐えたボディもそれなりにカッコいい。まずは市販のプラモデル+シャシから始めてみよう。

## 第2回 往年のGCドライバーズスロットカーレース大会

夢の供宴!? M.F.C.主催のスロットカーレースがレーシング・パラダイスで行われた



スピード感溢れるレース展開に思わずが入る。



往年の名ドライバーの集合写真。ファンにはたまらない豪華な顔ぶれ。



スタートラインに並び旗かしのマシン達。独特の緊張感の中でシグナルが変わる瞬間を待つ。レースはヒート制で交代。



和やかムードで走行開始。コース状況・マシンの特性チェックはお手の物。笑いながらも実は真剣。



和気あいあいの決勝バトル。さすが往年のジェントルマン。だがスロットカーを見つめる瞳は子供のよう。



スピードコントロールを誤れば、マシンはすぐにコースアウトする。

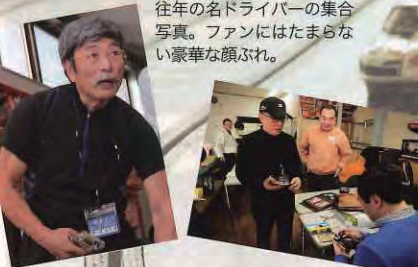
### 主催者の思いが実現したイベント

日本グランプリ・富士GCと多くの夢と、感動と興奮を与えてくれた当時のレーシングドライバーに「恩返しをしたい」という主催者の思いで当時のマシンを再現。すべて手作りのため、家族総出で仕上げ徹夜もした。第2回を迎えたこの大会は、決勝レースの順位に関わらず、参加した皆さんがレースに熱中し楽しんでた。このようなイベントが継続されることを望み、次回開催を楽しみにしたい。



### 大会運営は家族で!

70年代の富士グランチャンピオンシリーズのマシンを再現し、シリーズ戦・ゲストレースを主催しているM.F.C. 会場の雰囲気は実にアットホームだ。



左、レーサーの血が騒ぐのか真剣な表情の津々見氏。右、メカニックにセッティング要求の柳田氏。



優勝は予選トップの長谷見昌弘選手（写真中）、2位に原富雄選手（写真右）、3位に津々見友彦選手（写真左）

<http://www.diana.dti.ne.jp/slotcar/>